

授業日 9月26日(火) 5・6時間目

## 学習目標

「探究活動のまとめ【1】」

探究活動の基本的なスタンスを確認する

一つ上の次元から対象を見おろす見方を身につける(1)

… 最終レポート作成に向けて …

## 授業内容

◇ 探究活動の基本的なアプローチ法を振り返る

諺「木を見て森を見ず」が揶揄するものの見方について考える

木が小さな事(具体)、森が大きな事(抽象)の象徴であることを理解する

◇ 上記の諺と対極にあるものの見方を理解する

具体的に目を奪われず、背後にある本質(抽象)に迫ることができる

このものの見方を表すキーワードを学習する(辞書的意味を確認する)

俯瞰(ふかん)⇒高いところから見おろすこと・全体を上から見ること

鳥瞰(ちょうかん)⇒高いところから広範囲に見おろすこと

転じて全体を大きく眺め渡すこと(『広辞苑』第七版)

◇ 同様の意を表す研究的な用語を習得する

対象(自己も含めて)を絶対視せず、相対化できるようになる

「相対化」に近似する用語として「対象化」も使用可能語彙にする

自分の感覚、主観の状態、思想などを外側に移して、

自分が外にある対象を見るように、それらを取り扱うこと

(『精選版日本国語大辞典』)

◇ 更に大学院レベルの心理学用語を習得する

メタ認知⇒自分で自分の心の動きを監視し、制御すること。

認知についての認知。(『広辞苑』第七版)

◇ 本時で学習した「俯瞰」「鳥瞰」「相対化」「対象化」「メタ認知」の前提として、自らの主体性が重要であることを認識する。日本ではタブー視される傾向のあった「批判的」(クリティカル)な見方が重視されつつあることを認識する。

## 評価方法

◇ 本時のワークシートだけでなく、学期末提出の「ピーススタディ最終レポート」に、本時で学習した認識方法が視えるかを評価対象とすることをアナウンスする。

## 宿題指示

◇ ワークシート③を、本時の認識方法を意識しながら完成させ、自らの学習活動を振り返り認識を複眼的にする。